

第2学年 社会科学習指導案

1 単元名 「九州地方～自然環境を視点の中心にして～」(帝国書院)

2 単元について

- 「世界と比べた日本の地域的特色」の(ア)「自然環境」では、世界的視野から日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害について学習した。本単元では、九州地方について、地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を中核として、人々の生活や産業などと関連付けて学習していく。中国や韓国、台湾と近い地域的特性や交通網の発達と工業地帯の変容との関連など、地図や新旧の資料を比較することで、九州地方の特徴を読み取ることができる教材である。また、九州地方の学習を通して身に付けた産業の発展と交通インフラの整備との関連性から、私たちの街、嬉野市を見つめるとどのようなことが見えてくるか、身近な題材を取り扱うことで具体的な思考力の深まりにつながると同時に、自分の街の将来について具体的な意見をもつことができる。と考える。
- 本学級の生徒は、社会科に対する関心が高く、真剣に授業に取り組んでいる。第1学年の「世界の諸地域」で世界の州ごとに地域的特色を大観した上で、主題を設けて授業を行った。生徒は世界の各州の学習に興味をもって取り組んでいたが、基本的な学習内容の理解力や資料を読み取る力の個人差が大きく、話し合い活動では十分にその内容を深めることができなかった。
- 本単元では、九州地方の地形や気候、土壌などの自然環境における地域的特色と、農業や工業、自然災害を、地図帳や各種資料から生徒に調べさせる。それを基にして、自然環境と人々の生活や産業との関連を考察させ、各授業の中で、嬉野市との共通点と相違点について自分の考えを表明させる。このような過程を通して、嬉野市の現状の理解と将来的な展望について自分の考えをもたせていきたい。生徒にとって身近な地域を教材として取り上げることで、具体的なイメージがもちやすくなり、話し合い活動が活性化されることを期待している。

3 単元の目標

- (1) 九州地方や嬉野市の自然環境と生活、産業との関係について関心をもち、九州地方や嬉野市の特色を意欲的に追求し、捉えさせる。
- (2) 自然環境を中核として、人々の生活と産業の関係、嬉野市の現状や将来について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現させる。
- (3) 地図や資料から、九州地方や嬉野市の自然環境の特色や産業、災害や防災への取組を読み取ったり図表などにまとめたりさせる。
- (4) 九州地方や嬉野市の地形や気候などの自然環境に関する特色や、人々の生活や産業と自然環境との関わりについて理解し、その知識を身に付けさせる。

4 評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度【関】	社会的な 思考・判断・表現【思】	資料活用の 技能【技】	社会的事象についての 知識・理解【知】
○九州地方や嬉野市の自然環境と生活、産業との関係について関心をもち、九州地方や嬉野市の特色を意欲的に追求し、捉えようとしている。	○自然環境を中核として、人々の生活と産業の関係、嬉野市の現状と将来について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	○地図や資料から、九州地方や嬉野市の自然環境の特色や産業、災害や防災への取組を読み取ったり図表などにまとめたりしている。	○九州地方や嬉野市の地形や気候などの自然環境に関する特色や、人々の生活や産業と自然環境との関わりについて理解し、その知識を身に付けている。

5 単元計画 (全8時間 本時6/8)

過程	主な学習活動(○)	教師の働き掛け(○)	【主な評価】(・)	時配
学習問題を つかむ	《自然環境を中核とした考察》 自然環境を生活や産業に生かしている九州地方は、どのような特色があるのだろう。			1
	○九州地方の地形や気候、位置などをおおまかに捉える。	○九州地方の地域的特色について、雨温図や地図などから読み取らせる。	・九州地方の特徴を理解し、その知識を身に付けている。 【知】	
	○自然環境を生かした産業や災害、防災への取り組みについて調べたことをまとめる。	○地図帳や資料で九州地方に火山が多いことに気付かせる。 ○火山が地域に与えるメリット、デメリットを考えさせる。	・火山地帯のメリット、デメリットを読み取り、図表にまとめている。 【技】	
自然環境を生活や産業に生かしている九州地方の特色を基に、嬉野市の現状と将来について考えよう 《学習問題I》				
調べる	○九州地方の工業の特徴を、地理的条件や自然環境を関連付けて考察する。	○アジア諸国との近さと工業の変容から、九州地方の工業の特徴について考察させる。	・地理的条件や自然環境との関わりから、九州地方や嬉野市の工業の特徴を考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【思】	1
	○嬉野市の工業の様子と比較し、共通点と相違点についてまとめる。	○交通網の発達と工場分布の関連性を資料から読み取らせる。		
	○嬉野市の工業の現状について知る。	○嬉野市との共通点や相違点を考えさせる。		
	○九州地方の農業の特徴を、気候や火山に関連付けて考察する。	○農産物の収穫量の資料から、温暖な気候を生かした二毛作が盛んなことを読み取らせる。	・気候や火山に関係した地形との関わりから、九州地方や嬉野市の農業の特徴を考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【思】	1
	○自然環境を生かした嬉野市の農業について確認する。	○促成栽培やシラス台地の農業の特徴の資料から、気候や地形に合わせた農業が盛んであることを読み取らせる。		
	○嬉野市の農業の様子と比較し、共通点と相違点についてまとめる。	○嬉野市との共通点・相違点をまとめ、嬉野市の農業の特徴について考えさせる。		
○九州の観光地の特徴を、気候や自然と関連付けて考察する。	○湯布院・日田・阿蘇の観光に関する資料から、各市町の観光の特徴を読み取らせる。	・各観光都市の特徴を考察し、その過程や結果を適切に表現している。 【思】	1	
○嬉野市の観光や産業の様子と比較し、共通点と相違点についてまとめる。	○嬉野市との共通点・相違点から嬉野市の観光・産業の特徴について考えさせる。			

考え ・ ま と め る	○人口の推移等の資料から、嬉野市が抱える課題を読み取り、表現する。	○人口推移等の資料から、予測よりも速いスピードで人口が減少している様子を読み取らせる。	・嬉野市の活性化のために何が重要か、どのようなモデルが有効か自分の考えを表現している。 【思】	1 本 時 (6/8)
	○自然環境と人々の生活や産業との関連を基に、嬉野市の活性化のためには何が重要か、どのようなモデルが有効か考察する。	○これまでの学習を振り返り、嬉野市の活性化のためには何が重要か、どのようなモデルが有効かを考えさせる。(意思決定1)		
	論題 嬉野市の観光は「湯布院型」・「日田型」・「阿蘇型」のどれをめざすべきか。 《学習問題Ⅱ》			
	○嬉野市で実現可能な活性化のプランを考え、資料等にまとめ表現する。	○観光を通して町おこしに成功している自治体の取組を参考に嬉野市はどのようなことに取り組みばよいのかを具体的なプランとして考えさせる。	・嬉野市民として、市の将来を主体的に考え、自分の意見を表現している。 【思】	1
	○自分たちが考えたプランを紹介し合い、どのプランが一番有効であるか判断する。	○活性化プランの有効性を判断する上での視点(裏付け・実現可能であるか)を共通理解させ、自分が支持するプランについての意思決定を迫る。(意思決定2)	・他者の意見のメリット、デメリットを考察し比較した上で、どのプランが有効か判断し、自分の考えを表現している。 【思】	1

6 本時の目標

資料から人口減少などの嬉野市が抱える課題を読み取り、嬉野市の活性化のために何が重要か、どのようなモデルが有効かを考えることができる。

7 展開(全8時間 本時6/8)

学 習 活 動	教師の働き掛け(○)と評価【】
1 前時の学習を振り返る。	○嬉野と湯布院・日田・阿蘇の観光の共通点として自然環境である「温泉」があることを確認する。
2 「嬉野市地域公共交通総合連携計画」と嬉野市の人口の推移を比較し、読み取ったことを発表する。 ・嬉野市の見込みよりも速く人口が減少している。	○電子黒板で「嬉野市の人口の推移」と「嬉野市の計画に示される人口推移の予測」のグラフを表示し、比較させることで、見込みより速いことを視覚的に理解しやすくする。
めあて 嬉野市の今を見つめよう。	
3 人口が減少するとどのようなデメリットが生じるか考える。	○「人口が減ると困ることは何か」を問い、個人で考えさせる。

<p>予想される反応</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化 ・ 学校が廃校になる ・ 税収が減る など <p>4 農業・工業・観光で学習した「九州地方と嬉野市の共通点・相違点」を振り返る。</p> <p>5 嬉野市の活性化のためには「農業」、「工業」、「観光」のどれが重要か、優先順位を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自由な発言を促すために、税・医療・福祉・教育などの考える視点を与える。 ○ 嬉野市の人口が減少すると、どのようなデメリットが生じるかを考えさせることで、切実感をもたせる。 ○ 嬉野市の活性化のために、工業・農業・観光のうちどれが生かせるかを考えさせるために、前時までに学習してきた九州地方の工業・農業・観光と嬉野市との共通点や相違点を整理する。 ○ 生徒の発表や整理した表を参考にさせ、優先順位を考えさせる。 ○ 優先順位を決定する基準が、嬉野市で実現可能なものであることを確認させ、自分の考えを書かせる。 ○ 観光の優先順位が高くなることが予想されるため、これを基に、社会的な問題を確認し、論題を導き出す。
<p>社会的な問題(解決すべき事項) 嬉野市に来る観光客の宿泊が減ったこと</p>	
<p>論題 嬉野市の観光は、「湯布院型」・「日田型」・「阿蘇型」のどれをめざすべきか。 《学習問題Ⅱ》</p>	
<p>6 観光を生かした町おこしに成功している自治体を紹介し、嬉野市も活性化のためには、モデルとしてどの型が有効か考える。</p> <p>7 次時の予告を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「湯布院型」・「日田型」・「阿蘇型」を、それぞれ「温泉」・「町並」・「自然」というキーワードでモデル化し、どんな特色があるかを確認させる。 ○ 嬉野市を観光で活性化するためには、湯布院型・日田型・阿蘇型のどれがよいかを考えさせ、ワークシートに支持する型とその理由を記述させる。【評価】 ○ 選んだ型を、嬉野市ではどのように実現していくか、資料を集め、具体的なプランを提案できるように準備することを知らせる。

8 本時の評価

<p>単元の評価規準</p>	<p>自然環境を中核として、人々の生活と産業の関係、嬉野市の現状と将来について多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。 (社会的な思考・判断・表現)</p>		
<p>本時の評価規準</p>	<p>資料から人口減少などの嬉野市が抱える課題を読み取り、嬉野市の活性化のために何が重要か、どのようなモデルが有効かを考えることができる。 (社会的な思考・判断・表現)</p>		
<p>判定基準 (判断のめやす)</p>	<p>「十分満足できる」状況(A) 嬉野市の活性化のために何が重要か、どのようなモデルが有効かを、根拠を明確にして考え記述している。</p>	<p>「おおむね満足できる」状況(B) 嬉野市の活性化のために何が重要か、どのようなモデルが有効かを記述している。</p>	<p>「努力を要する」状況(C) (B)に達していない児童</p>
	<p>→(B), (C)と判断した生徒への支援策</p>	<p>→有効だと考える理由に具体例を挙げるように声を掛ける。</p>	<p>→各モデルと嬉野市の共通点(キーワード)を確認しながら考えを引き出す。</p>
<p>評価方法</p>	<p>ワークシートの記述</p>		